

興南、躍進の準V



ハンドボール

(花蓮市総合体育館)

▽少年男子決勝

山 口 32 (14-16) 沖縄
 (選抜) 18-9 (興南高)

(山口は6年ぶり8度目の優勝)

苦戦経て団結 選手たたえる

興南の黒島監督

○：興南高の黒島宣昭監督は「前半はうまくやって

いたけど、後半に相手の底力が出た。やっぱり強い」と完敗を認めた。

全国中学生大会の優勝経験者がいる現在の3年生は、入学時から期待されていた。だが、全国の選抜、

前半の優位守れず

2年ぶりの優勝には届かなかった。それでも全国で春2回戦敗退、夏も3回戦止まりのチームが目を見張る躍進を見せた。ハンドボール少年男子決勝、興南高は高校3冠が懸かる岩国工業高の選手主体の山口に7点差で敗れて準優勝。黒島宣昭監督は「よく頑張ってくれた」と賞辞を贈った。

素早いパス回しから平仲航の鋭いカットイン、渡慶次洗也のミドル、寺島健太の速攻で得点を重ね、前半は16-14とリード。だが「山口は後半に強い。安心感は一切なかった(平仲)と警戒した後半、戦況は一転した。

渡慶次、垣花源の西フロウターへのプレッシャーなど相手守備が激しくなるとミスも重なり、得点がびたりとやんだ。渡慶次は「相手は春、夏の王者。高い修正力で意地を見せてきた」と舌を巻いた。山口の倉倉康彦監督は「最後まで足を動かせるスタミナに自信があった」と振り返った。

16強で終わった8月の全国総体から、「まだ一つ残っている」と仕切り直し、国体の頂点を目指した。渡慶次は「練習はかなりきつかったけど、今までで一番まとまっていた」と語る。

堅守速攻の興南らしさは存分に出した。主将の平仲は晴れやかに言った。

「負けたのは悔しい。でも、みんな出し切った。楽しかった」

総体と結果を残せず「歯がゆい思いをしただろう」とおもんばかり。

3年生は22人で、国体メンバーに選ばれなかった選手も多い。だが、外れた選手も一緒に練習を続けてきた。「このままで終わりたいくない」と団結し、ここまで来た。いいチームワークだった」とたたえた。

安次崇

C1 成

空力又一

【少年男子】

(立御所湖公園公園漕艇場ほか)

▽スプリント・カナディアンシ

ンクル(200m)決勝 ◎安次

嶺琉夏(沖縄水産高) 49秒510

【成年男子】

▽スプリント・カナディアンシ

少年男子決勝 山口-沖縄 前半、興南高の平仲航がシュートを決める(花巻市総合体育館(勝浦大輔撮影))

(勝浦大輔)